(3)「学校と地域の連携」

事業名 地域活性化プロジェクト「新治ふるさと学習」
〔３年総合的な学習の時間・５年社会科〕
（地域との連携及び協力を推進し、
「地域とともに教育を推進する学校づくり」を目指して）

実施団体
名　称　土浦市立新治学園義務教育学校
所在地　土浦市藤沢913
ＴＥＬ　029-862-3503
メール　740101@sch.ibk.ed.jp
記入者　寺内　　明

1　ねらい

子どもたちに必要な資質・能力として、一人ひとりの児童が自分のよさや可能性を意識し、持続可能な社会の作り手になることが求められている。そして、そのためには、教育活動の実施に必要な人的・物的な体制を整え、家庭や地域社会との連携及び協力を深めること、また、地域における世代を超えた交流の機会を設けることが大切であると考える。そこで、本校が推進するコミュニティ・スクールを活用し、地域との連携及び協力を深め、「地域とともに教育を推進する学校づくり」を目指す中で、子どもたちに必要な資質・能力の育成を図りたいと考え、本実践に取り組んだ。

2　事業内容（活動内容）

小学校学習指導要領（平成29年告示）には、「横断的・総合的な取組が必要であり、その内容は、特定の教科にとどまらないこと」、「体験活動を重視すること」が明記されている。これを受け、「地域活性化プロジェクト」を立ち上げ、実践した。「地域活性化プロジェクト」の視点は、以下の３点である。

○３年生総合的な学習の時間「新治ふるさと学習」と５年社会科「くらしを支える食料生産」における合科的かつ教科横断的・総合的な取組とした。
○地域の特産物である米作りを体験することで、地域の方との交流を深めるとともに、地域に対する愛着や誇りの気持ちを育てていく。
○子どもたちの米作りをとおして、「新治の米」として地域に積極的に情報を発信し、地域活性化へとつなげていく。

3　成果・効果

本実践において、コミュニティ・スクールの組織を活用し、地域との連携及び協力を深めることができた。また、児童や保護者、地域の方々に、地域としてのよさやすばらしさについて投げかけることができたと考える。

(1)　３年生と５年生が米作りを体験した。５年生は３年生にやさしく教え、３年生は５年生の話を真剣に聞く姿が見られた。学年間の交流をとおして、自分の責任や役割について考えることができた。
(2)　子どもたちは、米の商品化に向け、米袋に貼るイラストを描いたり、購入者へのしおりを作成したりした。私たちの「新治の米」としての意識の高まりがあった。
(3)　協力してくださった方を招待し、感謝の会を開催した。協力者の方の「地域への思い」「子どもたちへの願い」などを聞き、地域への愛着をさらに深めることができた。
(4)　今回、約90袋が購入された。（ＰＴＡ会員数は190人）また、多くの方からぜひ活動を続けてほしいというメッセージを受け取った。多くの保護者がこの活動を理解し、協力してくれたと考える。

4　今後の課題

(1)　コロナ禍における地域の人的・物的資源の活用の在り方
(2)　キャリア教育や人権教育との関連

◆準備からふりかえりまで

〔地域活性化プロジェクト〕

1　地域の方への米作りの協力依頼

依頼したのは、コミュニティ・スクール推進委員会のメンバーで農業を営んでいる地域の方である。（今後、この方をＴさんとする。）

本校は、コミュニティ・スクールのモデル校として、研修をしてきている。その中心となるのが「コミュニティ・スクール推進委員会」である。
〔メンバー〕　15名で構成
元新治村長、元校長・教員、学校評議員、民生委員、主任児童員、市議会議員、コミュニティセンター長、地元企業経営者、現ＰＴＡ本部役員、学校代表（校長、教頭）

2　計画の立案（年間の見通し）

米作りは、３年生は総合的な学習の時間として、５年生は社会科としてのねらいや目標があり、そのための学習計画が必要である。

また、本活動は、合科的かつ教科横断的・総合的な取組となるため、３年生と５年生との綿密な計画や準備も必要である。さらに、そのためには、Ｔさんとの打合せも重要であり、教頭がＴさんと学校とのコーディネーターとして活動することにした。

3　体験活動

（田植えや稲刈り、田や稲の生育状況の観察等）

５年生は二度目、３年生は初めての米作り体験であった。５年生は、３年生に鎌の使い方など作業の仕方を教え、３年生はそれを真剣に聞きながら取り組んでいた。（写真１）

また、Ｔさんは、話し方もわかりやすいため、米作りの仕方だけでなく、昔の作業法（手作業）から機械化への移り変わりや米作りの工夫や苦労等についても話していただいた。

写真１　稲刈りの様子

4　育てた米をみんなへ

（米袋のイラスト描き、しおり作成→商品化）

３年生と５年生が考えて描いたイラストは、全８種類であった。（写真２）Ｔさんの協力により、子どもたちが関わった新治の米が、このような形で地域の方々に返すことができた。

また、米の売上金は、Ｔさんのご厚意により、本校の教育活動に充てられることに決定した。

写真２　米袋のイラスト

5　他校へ発信

３年生が、総合的な学習の時間の単元「私たちの町しょうかい」の活動として、オンラインにより他校へ発信した。

子どもたちが、自分たちが作った「新治の米」として自信をもって紹介する姿が大変印象的であった。

◆連携団体やキーパーソン

○コミュニティ・スクール推進委員会
○地域の協力者（本実践においてはＴさん）
○学校と地域とのコーディネーター
（学校代表、地域代表）